

児童虐待の予防・防止に向けて

豊平保健センターの取り組み



豊平保健センター(平岸6条10丁目)では、平成九年から児童虐待の予防・防止に関する取り組みを行っています。今回は、この取り組みを中心に取り上げ、現在、深刻な社会問題になっている児童虐待について考えてみます。

なぜ児童虐待は起こるのか？

児童虐待は、発生する原因やその内容(グラフ4)も、ケースによってさまざまで、いろいろな要因が複雑に絡み合っていることが多くなっています。ただ、親が子を虐待する場合に関しては、一般的に考えられている原因があります。それは、家庭や地域の中における育児の孤立化です。昔は、世代を超えて、多くの人の子育てにかかわっていました。しかし、現在では、少子化や核家族化が進み、子育てをする親が、祖父母や隣近所など周囲の援助を受けにくい環境になっていきます。そのため、親

年々増え続ける児童虐待

区役所内にある豊平保健センターでは、乳幼児の定期健診、健康教育、育児相談などの母子保健事業で、区内に住む子育て中の親たちを支援してい

ます。

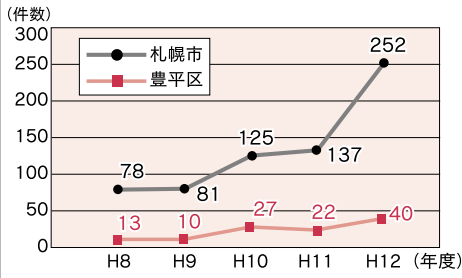
その中で、近年、地域で孤立し育児への不安や悩みを抱えたり、「子供がかわいく思えない」「育児がづらい」と保健婦に相談したりする母親、あるいは、実際に虐待をしてしまう親が増える傾向にあります。市の児童相談所が扱った区

内の児童虐待の相談件数(グラフ1)を見ると、確かに増加傾向にあることがわかります。また、市内全体では、虐待の対象は、三分の一が0歳から就学前までの乳幼児で(グラフ2)、虐待をする者の三分の二が、実の母親という数字が出ています(グラフ3)。

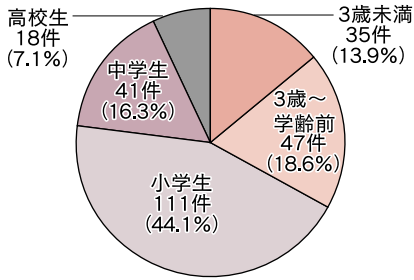
それは、家庭や地域の中における育児の孤立化です。昔は、世代を超えて、多くの人の子育てにかかわっていました。しかし、現在では、少子化や核家族化が進み、子育てをする親が、祖父母や隣近所など周囲の援助を受けにくい環境になっていきます。そのため、親

児童虐待の相談件数の状況

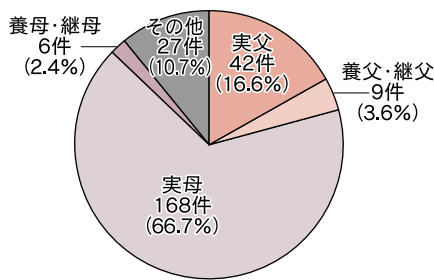
(グラフ1) 児童虐待相談件数の推移



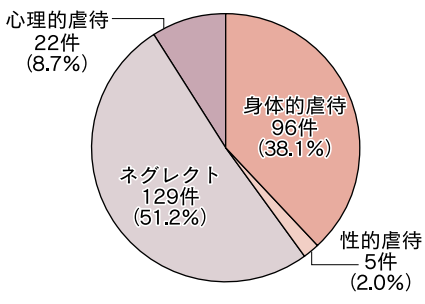
(グラフ2) 被虐待児の年齢構成



(グラフ3) 主な虐待者



(グラフ4) 虐待の主な内容



児童虐待とは

が子育てに自信を持ってなくなり、ストレス、不安、負担感などから子供を虐待してしまうケースがあるのです。「虐待をする親の気持ちがない」と思われがちですが、実は親自身も悩み苦しんでいるのです。

身体的虐待

殴る、ける、たばこの火を押し付けるなど、身体に傷を負わせ、場合によっては、生命に危険を及ぼす行為。

性的虐待

子供に性的関係を強要する、身体に触るなどの性的いたずらをする行為。

ネグレクト

食事を十分に与えない、病气やけがをしても適切な処置を施さない、あるいは子供が危険に至る重大な放置や不注意など。

心理的虐待

大声で怒鳴る、言葉で脅す、無視する、ほかのきょうだいと差別的な扱いをするなど、子供の心に傷をつける行為。

【児童虐待防止法の分類による】

〈グラフ〉札幌市児童相談所 (グラフ2〜4は、平成十二年度のデータです)